

# あんげろす

Jinken、あるいはDenkenのこと

今秋、120周年を迎える学院の一連の記念行事の一つに「明治学院人物列伝研究会」なるものがある。催し物としては、研究会という性格上ミスマッチの嫌いもあるが、120年という節目を飾るには、なにせその長い歴史に切り込むのだからタイムリーな企画であるといえなくもない。自画自賛はこれぐらいにして、この企画を思いついたのは、敗戦50年目に当たる一昨年、中山学院長の「明治学院の戦争責任・戦後責任の告白」、その自己検証としての冊子『心に刻む』の編集作業にさかのぼる。真理探究を第一とし、キリスト教教育を掲げる学院が、どうして、国家主義、軍国主義教育に膝を屈していかざるをえなかったのか。以来氷解せぬ疑問に、本研究会が契機となって少しでも答えることが出来ればというのが私の願いだ。さいわいにも、キリスト教研究所を会場とした初回会合に出席したメンバーの関心は、宣教医へボンから仏教改革者古河老川まで幅広い。読者諸賢のいっそうの参加を乞う次第である。

大西 晴樹

第15号

1997. 2

